

景況レポート

(2月分・情報連絡員 80名)

一部業界に回復の兆しだが、大震災の深刻な影響が懸念される

【概況】2月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが12.5%（前月調査11.3%）、「悪化」が45.0%（同48.8%）で、業界全体のDI値は-32.5となり、前月調査と比較して5.0ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-9.4で前月調査（-25.0）に比べ15.6ポイント上回った。また、非製造業全体は-47.9で前月調査（-45.8）と比べ2.1ポイント下回った。

製造業・非製造業とも雇用人員を除く全ての項目で前月を上回った。製造業では、繊維製品・製材関係で回復の実感が多少あるとの報告が多かった。非製造業も、一部の業界では多少回復を感じるという声が聞かれたが、個人消費は低迷したままで、原油価格高騰の影響も出ており、先行き不安な状況である。

(回答数:80名 回答率:100%)

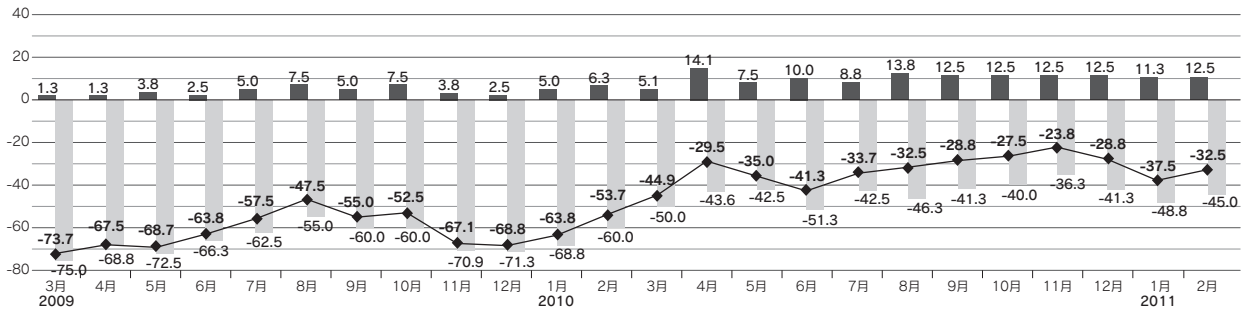
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁
非製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁

【凡例】

 [天気図の見方] 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- 麺類製造** 主原料の小麦や副資材の値上げが予想されるが、価格転嫁が思うように出来ないため、収益状況は一層厳しくなりそうだ。
- 味噌醤油醸造** 1月分の出荷量は、前年同月比で味噌が98.9%、醤油は87.4%で推移した。豪雪のため除排雪に追われ、予定通りの作業が出来なかった醸造元が多い。
- 繊維製品**

【秋田市他】1月に引き続き、春夏物の受注量が好調に推移している。しかしながら、一部得意先から材料(合成繊維、綿糸等)の値上がり分を抑えるために、加工賃の一層のコストダウン要請があり採算性の低さに苦しむ企業もある。

【由利本荘市】各アパレルメーカーは国内のキャパシティを拡大しており、これまで取引の無かった先からも問い合わせが殺到している。
- 一般製材**

【県南部】集成材製品を集中的に製造しているが、製品価格は少しずつ上がってきており、さらに上がる可能性もある。丸太も値上がりしているため、収益はまだだが、業界として良くなってきていると感じている。

【県北部】製材品は関東、北陸からの引き合いが依然として好調で、売上は前年を大きく上回っているが、原木高が続いており、製品価格は上げ基調でも収益面では厳しい。
- 自動車販売** 2月の新車販売台数は、登録自動車が1,659台(前年同月比85.4%)、軽自動車が1,570台(同95.7%)で、合計3,299台(同90.1%)であった。前月比で見るとマイナス幅が縮まってきており、多少、回復感を感じる。
- 石油販売** ガソリン1ℓ当たり136円で前月比1円引き上げ、軽油1ℓ当たり117円で前月比2円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,579円と前月比67円の引き上げとなった。中東情勢の緊迫化により、原油価格の高騰が続いている。
- 商店街**

【秋田市】業種によって違いはあるものの、売上は昨年比10%程度減少しており、資金繰りは勿論のこと、収益確保が難しい状況にある。原油、原材料(小麦粉、砂糖等)の値上がりで今後の営業に危機感を持っている。

【鹿角市】2月に国体が開催されたが、山の賑わいのおこぼれは、商店街ではなく、中域型のショッピングセンターとコンビニだった。
- 旅行** 大雪の影響を懸念していたが、雪解けが早かったのと、建設関係が除雪の収入で団体旅行に出かける等、後半からは国内、海外共に受注が好調であった。
- 電気工事** 公共工事ではないにしても、民間施設等の大規模なリフォームや地デジの工事などの受注があるが、忙しい割には請負金額や作業賃金が安いいため、収益状況は決して良くない。